

プログラム名 (40字以内)	【岩手県三陸沿岸地域】みちのく潮風トレイルを通した持続的な地域振興 ～トレイル&トレイン～		
団体名/所属	岩手県 ふるさと振興部 県北・沿岸振興室		
活動区分	農林水産業などに関わる地域体験活動、 フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	東日本大震災津波からの復興と三陸地域の持続的な振興について関心のある人		
活動期間	2025/8月上旬～9月中旬 3泊4日	主な活動予定場所	岩手県三陸沿岸地域(宮古市・大槌町等)
プログラム実施の目的	三陸鉄道リアス線と世界で唯一の「震災をいつまでも語り継ぐための記憶の道」であるみちのく潮風トレイルを通して、三陸地域の今を体験するとともに、持続的な三陸地域の振興に向けて地域の人々と意見を交換し検討することにより、視野を広め、社会観の涵養を図る。		
具体的な内容(800字程度)	東日本大震災津波により大きな被害を受けた岩手県三陸沿岸地域では、震災の記憶と教訓を伝えるとともに、三陸の多様な魅力を発信して国内外との交流を活性化することにより、地域の持続的な振興につなげていく取組を進めています。 岩手県三陸沿岸地域には、道路交通網のほか、総延長163kmの三陸鉄道リアス線が南北を結んでおり、ほぼ並行に令和元年に開通した自然歩道「みちのく潮風トレイル」が通っています。 このトレイルは、歩きながら、自然や文化に加え、「震災を語り継ぐための記憶の道」として、震災について学び考えることができる唯一のトレイルとして、近年、英紙タイムズなどでも紹介され、海外にも人気が広がってきています。 本プログラムでは、みちのく潮風トレイルや三陸鉄道、地域との交流を通じて、未曾有の災害から復興、その先の地域資源を生かした振興へ、震災から現在そして未来へと繋がっている地域の人や組織のストーリーと豊かな自然をはじめとした地域の魅力を直接体験いただき、三陸沿岸地域の持続的な振興について考えていただきたいと思います。 ■活動の内容(例) ① 三陸の海と地域の現状、課題を知る (東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター、三陸DMOセンター等) ② みちのく潮風トレイルを知る (トレイルハイキング、トレイル維持活動参加等) ③ 三陸鉄道を知る (三陸鉄道震災学習列車乗車等) ④ 地域や旅人との交流 (ゲストハウス宿泊等「ゲストハウス3710」「東京大学大気海洋研所大槌沿岸センター」「大槌町 浪板交流促進センター」等)		
【総額】参加するための費用	64,000円程度		
【内訳】参加するための費用 (宿泊費)	18,000円程度 (6,000円×3泊)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	35,000円程度 (東京⇒盛岡[新幹線]⇒宮古[バス])往復		
【内訳】参加するための費用(その他)	11,000円程度(食事代、域内交通(三鉄)等)		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料の ダウンロードサイト	「みちのく潮風トレイル」 https://tohoku.env.go.jp/mct/ 「三陸鉄道」 https://www.sanrikutetsudou.com/		
応募団体を紹介するウェブサイト 等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者 (応募団体)の参加の有無	参加する		